

遊び方説明書

内容物を取り出す前に**必ず裏面**までお読みください

注意

本パッケージには、下記の順番で内容物が入っています。
中身を見ないように、欠品がないかご確認ください。

- ① 説明書×1枚 (本紙です) ② 捜査カード×15枚 ③ ポイント集計表×1
④ シナリオブック×5冊 ⑤ 非公開情報シート×15枚 ⑥ endシート×5枚

(欠品がないことを確認したら)説明書からシナリオブックまでを取り出し、シナリオブックを1冊ずつ受け取ってください。

※まだ中を見ないでください

ゲームの流れと目安時間

●ゲームは3章構成で進んでいきます。各章の流れは下記のとおりです。適宜休憩しながら進めましょう。

事件のあらすじを読み、
キャラクターを選択する

10-15
min

全員で話し合い、
投票をおこなう

20-25
min

非公開情報を確認し、
捜査カードを取得する

5
min

事件のエピログを読み、
ポイントを集計する

10
min

次章へ

各章1時間程度で
終わらせるようにしましょう
(時間に余裕があれば
じっくりプレイしてもOK)

捜査カードとポイントについて

- 各章の議論を始める前に、「捜査カード」を取得することができます(取得しなくても構いません)。
- 捜査カードは、所持ポイント(1pt)を消費して取得することができます。
- 各章で取得できる捜査カードは、1人1枚までです。●初期値として、各プレイヤーは1ptを所持しています。
- ポイントは各章の勝利条件を満たすことで獲得することができます。
- 捜査カードは取得者以外には見せてはいけません。
口頭で内容を伝えることはもちろん構いませんし、嘘をついても問題ありません。
- ゲーム中に獲得しなかった捜査カードは、最後まで確認することができません。

- ✓ 2章以降は、累計獲得ポイントの多いプレイヤーから順にキャラクターを選択する権利があります。

最終的に、ポイントを最も多く獲得したプレイヤーが勝者となります。(捜査カードの取得にはポイントを消費しますが、所持ポイントではなく累計獲得ポイントで勝敗を決めます)代表者がポイント集計表に記載して管理してください。

※裏面も確認してください

●捜査カードは各章ごとに5枚用意されています。各章で獲得できるポイントの目安は下記の通りです。

	1章	2章	3章
ポイント獲得目安	0~3pt/1人あたり	0~3pt/1人あたり	0~1pt/1人あたり

議論について

- 議論は全員で行います。密談や個別に話すことは控えましょう。
- 非公開情報と捜査カードの内容については、全員が嘘をついて構いません。
- 非公開情報に書かれている文章を、そのまま読んではいけません。必ず自分の言葉で伝えるようにしましょう。
- 勝利条件に書かれている内容は、他のプレイヤーに伝えてはいけません。
- 書かれていない、あるいは曖昧な内容がある場合、「重要ではない」「覚えていない事」だと捉えてください。

投票について

- 投票は非公開情報シートの裏面に記入して行います。全員の記入が終わったら、1人1分程度で推理を発表しましょう。

ご注意とお願い

- 本作品はフィクションであり、実在する人物、団体、事件、症例等とは一切関係ありません。
- 本作品の複製・転載・配布を禁止します。
- 本作品をイベント等で使用する際は、必ず1パッケージの購入をお願いします。シナリオブックはお持ち帰り頂くようにしてください。
- 本作品は、一度しか体験できないゲームです。Web・SNS等でのネタバレはお控えください。
- ただし、「1章(具体的には、シナリオブックP.15までの内容と、1章の非公開情報、捜査カードの内容です)」の「動画配信」については許可しています。必ず、視聴者の方にネタバレ有りだとわかるようにしてください。

説明は以上です。手にしているシナリオブックの表紙の「CAUTION!」をよく読んでから、ゲームを始めてください。



©大阪人狼ラボ
<https://osaka-jinro-lab.com>
ゲームデザイン：村長 / デザイン：かべた

スペシャルサンクス

あさみ、OTDR、かおり、キダ、グリーン、ゴエ、ssk、すえびろ、たっ、タノムサク、まいまい、まゆげ

第一章 無自覚な殺人

〈19:30〉

クリスマス・イブ。山手線の駆ける音が透き通った夜の空気を振動させる。渋谷駅前特別な日もそうでない日も変わりなく騒々しい。信号が緑色に変わる。スクランブル交差点を渡る人たちの波。中央で、ぶつかって、交じりあう。彼は濁流の一部でありながら、流れに翻弄される硝子片のような無機質さを纏っていた。

シンプルな黒のストレッチパンツに黒いパーカー。両手をポケットに突っ込み、目深にフードを被っている。大きなリュックサックを背負った背中は極端に曲がっている。

足早に歩く。家電量販店の前を通り過ぎ、横断歩道を渡ろうとしたところで、強く腕を引つ張られた。少女が彼の右腕を掴んでいる。彼は少女に視線を向ける。艶のある黒髪は蜘蛛の糸のように細く、繁華街の強い光を受けて少し茶色がかって見える。化粧気のない白い肌が少女の幼さを強調するが、背格好から判断するにそう年齢は離れていないだろう。

——沈黙が続く。彼は困惑している。一方で半ば諦めている。彼にとってこういった状況は特別ではないが、面倒極まりないことには違いない。だが、自らは動かない。困ったら後手に回ることにかけているのだ。

少女が無表情に覗き込んでいう。

「行きましょう」

「行くってどこへ？」と彼は当然の反応をするが返事はなく、少女は腕を挿んだまま、彼を引っ張って行った。

少しして、高級ホテルの玄関前で歩みは止まった。

「さ」といって少女は彼の手を握る。

「待て。『さ』の一字で片付けられても困る」彼ははまだ事情を飲み込めていない様子だった。

「うーん」と少女は首をかしげていった。

「やる？」

「へっ？ やるって？ 誰が、何を、どうやって……？ え……？ 誰が？ ……いやいや！ やるかどうかは置いて、さっきから説明がまったくくないんだよ！」

虚をつかれたこともあったが、いよいよ我慢の限界だった。

「ふふっ……、やるかどうかに関する言及を脇に置いたことによって、むしろ、あわよくばという心理が浮き彫りになったわね。まあ、ここまで黙ってついてきている時点で？ 猜疑心よりも下心が勝っていることは明白だった訳だけど」

「急にたくさん喋らないでほしいし、決めつけないでくれない？」

「ほんとうは？」

「……いや、えーっと、まあ。……あわよくば？」

彼は逃した魚を大きく評価するタイプの人間のようにだった。

「ふふふっ！」少女は笑った。

「大丈夫、落ち着いて……。私たちは、ほら、いわゆる運命の人ってやつ？」

「オーケー、そこまでいってくれるのなら、僕も正直に君への気持ちを伝えよう」

彼はわざとらしく肩をすくめ、手の平を胸の辺りまで持ちあげた。

「君が誰なのかさっぱりなんだ。どこかで会ったことがあったかな？」

「私の名前は笹川葉月ささがわはづき。あなたとは何度も会ってる」

——それに、生まれたときから、あなたのことが好き。

上品な内装のエントランスに調和する、銀色の壁掛け時計が19時45分を示していた。

§

〈21:00〉

手入れの行き届いた高級ホテルの一室。都心の喧騒を忘れさせる静かなBGM。寝息すら聞こえない。ダブルベッドのシーツだけが乱れている。

彼がはっと目を開ける。そして飛び起きる。

「えっ！ 事後!? 事後なのか？」

慌てて隣で眠る少女の姿を確認する。

「いや……、待てよ。俺も彼女も服を着たままじゃないか」ぼんぼんと自分の腰のあたりを叩いてみる。少女は黒いマフラーすら巻いている。

彼は次第に落ち着きを取り戻し、少女のことを眺めた。

「改めて見ると、きれいな顔だ。それにやっぱり、めちゃくちゃ肌が白いな……」彼はためらいもなく、少女の頬に手を伸ばす。

頬に手が触れる。そして、気づく。少女の呼吸が止まっていることに。

§

〈23:30〉

繁華街の路地裏。乱雑に棄てられたゴミ袋の山に足を取られたが、なんとか倒れ込まずに踏ん張った。背後からは怒号が聞こえる。複数いる。客引きか半グレか、追手の素性はわからないが、とにかくそういった連中のようだ。逃げなければ、という思いが体を動かした。

路地の裏の路地の、さらにその奥の路地へと迷いこむ。そして、ついにへたり込んだ。不規則に点滅する街灯に照らされ、彼は震えていた。

「ううっ……、ま、間違はなく、死んでた……。だいたい、僕が飛び起きた時点で、ふつ

う目を覚ますだろ……」少女の感触を思い出すように、指先を握りしめる。

「はあ……、僕が殺したってことだよな……。いつかやるんじゃないかって、思ってたけど、まさか、マジで殺っちまうかよ……」

彼は泣いた。路地裏の隅で、声を殺して。雪が降ってきていた。

彼の体が大きく震えた。律儀に背負っているリュックの中でスマホが振動したのだ。緩慢な動作で取り出し、画面に目をやる。

——笹川葉月。

登録した覚えはなかった。震える手で「応答」をスワイプして耳にあてる。

「もしもし」と舌足らずで幼い声。

彼は言葉を返せない。

「もしし。おい。聞こえてるのかな？ わたし。はっちゃんだよー」

心臓がぎゅっと小さくなる。

「大丈夫かな……？ えっと。とりあえず、さっきはありがとうね。私は生きてるから大丈夫だよ！ ありがとう！」

「いや、生きてるって……？」 呆然としながらも、なんとか言葉を振り絞る。

「あ、お友達みつけ！ じゃ、そういうことで、まったねー」

「ちょ、おい、待っ……」

電話は切れてしまった。全身の力が抜けていく。

「生きている？ あの状態から蘇生するなんて……」
彼は疲れきっていた。空を見上げる。雑居ビルの隙間から見える夜空は、暗く濁っていた。

しばらくの間、宵に覆われた空を仰いでいた。せせこましく並んだ雑居ビルの看板の群れが、視界の端で騒がしい。その中にひととき目立つ——デザイン的には何の個性もないのだが——、それゆえに孤立した看板が目についた。

『ヴェルウッド・メンタルクリニック』

開業場所を間違えているとしか思えない。しかし、彼は吸い込まれるようにして螺旋階段を上っていく。昭和のスナックといった装いのステンドグラスの扉には、たしかに「心療内科」という文字があった。

扉を開くと、からんころん、とドアベルが鳴る。中は薄暗く、いよいよ夜の店にしか見えなかった。

「んー？」と、奥の方から声がした。ボックス席のソファから、白衣を着た初老の男がむくりと起き上がり、彼に目をやる。

「お客さんか？ あいにくウチは心療内科なもんでね。でもま、酒が飲みたけりゃあ自由にすればいいさ」男は頭を掻きながらいった。

「あ、あの、突然すみません。ちょっとご相談がありました」

疑い深そうな男は、彼を見定めるように目を細める。

「ふうん。見たところ、未成年か微妙なところだね。ま、ノンアルコールで我慢なさいよ」
欠伸をしながら男は冷蔵庫を開け、オレンジジュースをグラスに注いでカウンターに置いた。

「さあ、君の話聞かせてくれるかい」

彼はすべてを話した。どうにでもなれという思いと、もはやどうにもならないという思いが、ありのままを話させた。

——グラスの中身はすっかりぬるくなっていた。

「なるほど。君には解離性同一性障害の自覚がある。ご存知のとおり、昔は多重人格と呼ばれていたものだね。僕は探偵や超能力者じゃないから、君が何をしたのかまでは与り知るところではない。その上で、精神科医としてアドバイスするなら、まずは状況を整理すること。そして、君自身と対話してみることだね」

自称精神科医の男はそういった。

以降に公開情報が記載されています。任意の方法でキャラクターを選択し、非公開情報シートを獲得してください。全員が非公開情報を確認したら、議論を始める前に「第一章の捜査カード」を取得することが可能です。20分間の議論時間の後、解答カード（非公開情報の裏面）に記入して、解答を発表してください。

八神ハルト（20歳／男）のカルテ

大学2年生。地方から都内の大学に進学し、一人暮らし。小学校にあがるころには別人の存在を自覚しはじめた。それ以前から別人格が行動していることも多かったが、あまり疑問に思っておらず、解離性同一性障害を日常の一部として捉えている。

5つの人格を内包しているが記憶は共有していない。そのため、誰がいつ表出しているかはわからないが、脳内でそれぞれの人格ごとにコミュニケーションを取ることが可能。

人格交代に関してはルールがある。①人格の交代にはきっかけがある ②わずかでも表出したのち潜伏した人格は、引っ込んでから二時間は表出できない。

人格①イチローのカルテ

無難な性格で、厄介事を避けるために人との接触を極力避ける行動方針を掲げている。

唯一、ほかの人格ともうまく折り合いをつけながら共存していければよいという考えを口にしており、実際、ほかの人格の相談に乗ることも多い。

人格②ジローのカルテ

チャラチャラした性格で社交的かつ女好き。コミュニケーション能力が高く、よく表出しているが、ジローが表出した後にはよくわからない交友関係ができてることが多々あり、ほかの人格は迷惑している。

人格③サブローのカルテ

週に三回、筋トレのために規則正しく表出する。クリスマス・イブにも表出するルーティーンだった。トレーニングが終わるとすぐにほかの人格に交代する性質がある。交代された人格はひどく疲れているのでたまったものではないのだが、実直かつマイペースな性格ゆえか、人の話を聞いていないことが多く、ほかの人格からは半ば諦められている。

人格④シローのカルテ

小学校低学年のころ、天才ピアニストとしてテレビに取りあげられるほどの才能だったが、多重人格であることがメディアに知られたことで報じられ方が大きく変わり、意図しない形で有名人になってしまった。以降はピアノを弾くこともなくなった。

人格⑤ゴローのカルテ

潔癖症。不潔な思いをすると表出するが、ゴロー以外には基準がよくわからない。手洗

いが趣味で、専用のポーチを持ち歩いている。潔癖であること以外には無頓着。

Q.

女を殺した人格は？

※※注意※※

次のページは、議論を行い、全員の解答が出揃った後に開いてください。

(議論時間…20分)

2021.
3.28.
発売

1 パッケージ版をゲームマーケットで買う

下記、ゲーム専用フォームよりご予約ください。
当日ゲームのブースにてお受け取りいただきます。

ご予約はこちら

2 パッケージ版をネット注文する

下記、Yahoo!ショップよりご予約ください。3月25日までに
頂いたご注文は、3月26日に発送手配をおこなう予定です。

JINRO Lab SHOP



3 DL版を購入する

3月28日にAmazonのKindleストアより販売開始予定です。

ご予約は左記から

応募期間 3月1日(月)～3月24日(水) 23:59まで

マダミスの導入ストーリーを
読んで犯人を当てよう!
キャンペーン

応募者の中から
抽選でパッケージ版が当たる!!

3名様

応募方法

- 1 公式サイトから1章のあらすじを読んで犯人を予想する
- 2 大阪人狼ラボのTwitterアカウントをフォロー
- 3 キャンペーンTweetをRTして、犯人予想を発表してください!

犯人予想をツイート▶

※当選者には、3月25日にツイッターのDMにてご連絡いたします。

リツイートキャンペーン

